

鳥坂寺跡

鳥坂寺の実像に迫る

河内国御智識寺南行宮己酉天皇幸智識
山下大里三宅家原鳥坂等六寺礼仏庚戌
遣内舎人於六寺誦經儼施有差壬子大雨
賜河内国諸社祝祢宜等一百十八人正稅
各有差是日行至難波宮御東南新宮三月
甲寅朔太上天皇幸堀江上乙卯詔免河内

7世紀後半に創建されたとみられる鳥坂寺は、10世紀頃に廃絶したことが、出土した瓦の状況から読み取れます。それから1000年以上の時を経て、鳥坂寺は、再びわれわれの目の前に姿を現しました。『続日本紀』という文献に記載され、「鳥坂寺」墨書土器によって、寺名が確認された非常に貴重な遺跡といえます。また、伽藍配置が明らかで、見つかった金堂の基壇や階段の状態は、全国的に見ても他に比べる例がないほど良好なものでした。

このような鳥坂寺跡の歴史的・文化財的な価値が認められ、平成24年1月24日、国の史跡に指定されました。鳥坂寺は、現代のわれわれに、仏教にかかわった当時の人々の思いや、柏原の歴史を知るための手がかりを与えてくれます。再び灯ったこの古代の光を、現代で絶やすことなく、市民のみなさんと一緒に未来へ繋げていきたいと思ひます。

編集・発行 柏原市教育委員会 文化財課



柏原市民歴史クラブ製作の 1/30 伽藍模型

2015.3



しびまる しびめ

寺院の主要な建物である塔・金堂・講堂などの位置関係を「伽藍配置^{がらんはいち}」といいます。河内六寺の中で、伽藍配置や関連する他の建物が調査で確認されているのは鳥坂寺だけです。

回廊 金堂を囲むように造られていた廊下です。見つかった礎石や礎石を抜き取った穴の状況から、回廊の北側では、東西 3.2m(コーナー部分では 3.6m)、南北 3.6mの間隔で礎石が置かれていたことがわかりました。

塔 仏舎利^{ぶっしゃり}(釈迦の遺骨またはその代用品)を祀るための建物で、一辺 8.66mの基壇の三重塔と推定されています。基壇自体はすでに失われていましたが、塔の中心の柱を支える礎石^{しんそ}(心礎)や、基壇周囲を巡る雨落溝が見つっています。

中門 詳細不明ですが、調査で金堂南階段より南の地点に溝が見つかりました。中門に関連する遺構の可能性がります。



講堂 僧が勉強する建物で、基壇は東西 32.3m、南北 20.3m、高さ約 50cm と推定されています。礎石のほとんどが、当時の位置のままで見つかり、また建物中央には、須弥壇^{しゅみだん}が造られていました。

須弥壇 仏像を安置するためのもので、凝灰岩で造られています。南側に幅 4m ほどの階段があります。

僧房・食堂 僧が生活する僧房^{じきどう}(南北 26m以上 × 東西 4.7m)、食事をする食堂(南北 15.2m × 東西 10.4m)は、金堂から谷を隔てた南東の場所に建っていました。いずれも地面に穴を掘って、直接柱を立てた掘立柱建物で、周囲には柵の跡や井戸なども見つっています。



金堂 本尊を安置する寺院の中心的な建物です。基壇は東西 18m、南北 15m、高さは推定 1.4mで、地面を掘り込み、そこに加工した凝灰岩を据えて基壇を造っています。基壇の上にあった建物の様子は不明ですが、礎石とみられる石が見つっています。また金堂の南側では、石を多く含む盛り土で斜面を埋め立て、地面を平らにしていたことが確認されました。

須弥壇写真…大阪府教育委員会 1968『河内高井田・鳥坂寺跡』より

しび 鴟尾 建物の屋根の大棟両端に付ける飾り。瓦ぶき屋根の頂点に据えられた一対の鴟尾は、寺院の象徴といえます。鳥坂寺では、5種類ほどの鴟尾が見つかっています。

鴟尾 A 1929 昭和4年発見。下半部がほぼ完存し、正位置で埋設していることから、一時的に屋根から降ろした、あるいは一度も使用することなく放置された可能性があります。現在、復元され、東京国立博物館に展示されています。



鴟尾 A



鴟尾Aの復元模型
(柏原市市民歴史クラブ製作)



鴟尾 B



鴟尾 C

鴟尾の頂部の破片で、上端が階段状になっています。



鴟尾 C'

C と似ていますが、段の向きが異なります。



鴟尾 D



鴟尾 D'

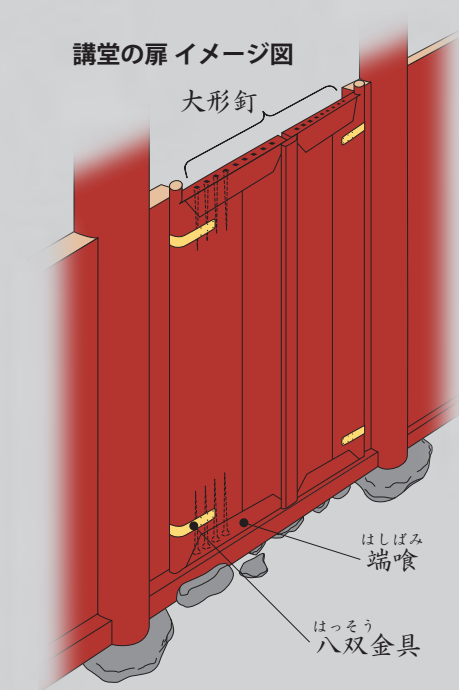
D に似ていますが、D にはない縄叩き目があります。



鴟尾 E

見つかっている鴟尾では最も古いタイプです。

講堂の扉 平成 21 年の再調査の際、講堂中央背面の礎石付近から、石組とともに多数の鉄製品が見つかりました。出土位置や形状などから扉の軸を補強するための八双金具と、扉の上下にある端喰を扉板に固定するための大形の釘と考えられます。



八双金具と大形釘

八双金具は幅 7.5 cm、長さ約 40 cm の U 字形で、大形釘は長さ 38 ~ 48 cm、太さは約 2.5 cm あります。

所蔵・保管…鴟尾 A：(原品) 東京国立博物館
(模型) 柏原市教育委員会
鴟尾 C・D：大阪府教育委員会・奈良文化財研究所
鴟尾 B・C'・D'・E、扉金具：柏原市教育委員会
鴟尾 A 出土状況…大阪府 1930
『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第一輯より

瓦 最も多く出土する遺物で、平成 21・22 年度の調査では、瓦だけで約 12000 点見つかっています。特徴的な瓦として、蓮華文様のある軒丸瓦(①~③)、弧状の線のある軒平瓦(④・⑤)や、仏像が描かれた平瓦(⑥)、文字が書かれた平瓦(⑦)などがあります。



たまつくりべあすかのこおり
『玉作β飛鳥評』
って書いてあるんだって

土器 瓦の次に多く出土し、三彩陶器(⑧)、土師器の皿、黒色土器などがありますが、ほとんどが小さな破片となっています。また金堂南側の盛土の中から古墳時代前期の埴輪の破片(⑨)が見つかることから、金堂の近くに古墳があった可能性があります。



⑧



⑨

せんぶつ 埴仏 粘土を焼き固めて作られたもので、講堂の須弥壇付近から見つかりました。堂内の壁や、須弥壇を飾っていたものとみられます。高さ 10 cm ほどで、⑩・⑪とも同じ型で作られていますが、下端の形状が異なり、⑩は「飾る」、⑪は「持ち運ぶ」と用途が違っていただのかもしれませんが。また表面には漆を塗り、金箔を貼り付けていた痕跡があります。当時の人々の「祈り」を今に伝える貴重な遺物です。

所蔵・保管…①・②・④・⑥・⑦：大阪府教育委員会・奈良文化財研究所
⑩・⑪：大阪府教育委員会
③・⑤・⑧・⑨：柏原市教育委員会



当時の人は
何をお祈り
してたのかな?